

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 22-007

PDCA	事務事業名	福祉ふれあいプール管理運営事業	部課等名	健康子ども部 スポーツ課 施設担当	担当	豊田	
					内線等	27-6663	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち 節： 第2節 生涯学習の推進 基本施策： 4. 生涯スポーツ・レクリエーション 単位施策： (2) スポーツ施設の効率的利用と整備・充実 個別施策： ③スポーツ施設の整備					
	根拠法令等	—					
	対象・目的	快適な施設の環境維持に努め、利用者に安全に水泳や水に親しむ場所を提供する。					
	目的を達成するための手段・活動内容	・児童プール槽床の改修 ・指定管理者制度による施設管理の継続 ・自主事業の企画運営 ※141,000人(30年度年間) + 9,000人(4月) = 150,000人【目標値】					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	28年度	29年度	30年度	単位	
		①年間開館日	307	310	308	日	
		②					
		③					
		事業費	147,621	82,847	99,462	千円	
		人件費	1,770	1,687	1,285	千円	
		総事業費	149,391	84,534	100,747	千円	
		活動単位当たりのコスト	28年度	29年度	30年度	単位	
	①福祉ふれあいプール利用者1人あたりの管理運営	732	890	754	円/人		
	②福祉ふれあいプール敷地面積1㎡あたりの管理及	7,832	6,292	7,498	円/㎡		
	③						
	成 果	成果指標	28年度	29年度	30年度	単位	
		①施設利用者数	実績値	143,796	95,025	133,560	人
			目標値	150,000	88,500	141,000	
		②	実績値				
目標値							
③		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ある
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	
						ある	
	事業の評価・課題	D 施設利用者数の目標値を達成できなかった。平成29～30年度の改修中に25mプール、ウォータースライダー等の主要プール施設が長期間にわたり利用制限されたことが一因として考えられる。水泳教室、アクアビクス教室、シェイプアップ教室等新しく利用者を増やす自主事業の開催やプール槽の改修工事を実施し、サービスの充実と安全・快適に施設を利用できる環境を整備した。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 新規の利用者の獲得、市民ニーズの反映や施設の有効活用を図るため、指定管理者との担当者会議を行うと共に、各種教室、クリスマス企画、幼児プール体験等のイベントを更に充実させ、利用者の増加に努める。また、施設の老朽化による修繕を計画的に実施する。					
	令和元年度の目標	成果指標	目標値			単位	
		①施設利用者数	150,000			人	